

令和元年度

事業所名： グループホーム わがの里

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600062		
法人名	社会福祉法人 和江会		
事業所名	グループホーム わがの里		
所在地	岩手県北上市下江釣子11地割2番地17		
自己評価作成日	令和元年11月20日	評価結果市町村受理日	令和2年8月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入所者の笑顔が毎日見られ安心して、生活出来るように見守りや声をかけながら支援しています。 ・家族のように側に寄り添い生活のお手伝いをしています。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JiyosyoCd=0390600062-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、北上市の西部(旧江釣子村)にあり、開所後10年を経過した。近くには藤根駅、神社や幼稚園、郵便局等がある。事業所前の道路を挟み向い側には、系列法人の特別養護老人ホーム、デイサービス事業所、保育園があり、介護職員はホームの経験者も多く介護力が高い。特に入浴介助や排泄介助においては、利用者本位のケアが提供されている。入浴は夕方から提供され、利用者の状態によっては毎日提供されている。また、排泄面においては、薬に頼らず自然排便を促す試行が日常的に行われており、利用者は日中、職員の上手な声かけでトイレ誘導がなされ、布パンツと最小限の排泄用品のみの使用で過ごしている。食事時間も含め、ホール内では利用者と職員の笑い声や笑顔が溢れている。これまで母体法人の事業や系列保育園等の恵まれた環境下で運営されてきたが、今後は、事業所独自に、地域との交流や防災活動等を計画的に創出し、更に発していくことが期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年12月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム わがの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・いつも笑顔で安心して暮らせる日々を目指して ・まごころこめて生活のお手伝いをします。 ・家族のようにいつもあなたのそばにいます。 を理念とし、努力しています。	事業所立上げ時から同じ理念で継続して取り組み、ホールから見える位置に理念を掲示することで、職員は日々のケアの中で、利用者の笑顔を引き出す事を意識しながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加している。 ・鬼の館へ催し物の見学。 ・地区行事への参加 特養やデイ、保育園の行事参加。	年1回6月に神楽見学に鬼の館に出かけている。年2回地区のごみ拾いに法人全体で参加している。近隣小学校の運動会や発表会の案内をその都度いただき、近隣で開催される「世代をつなぐ会」での、みづき飾りにも3~4名の利用者が参加している。5月1日の開設記念日には、開設当初から今日まで、近隣へ赤飯を配りご挨拶する活動を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・日々のケアを実践をしながら、認知症への理解を深め、地域に発信出来るように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月ごとの会議を実施している。 ・利用者の生活の様子を報告し、家族や委員の方達からも意見を頂いている。 ・写真を提示して近況を報告している。	運営推進会議には複数の利用者家族が委員として参加している。利用者の状況報告の他に身体拘束の勉強会なども報告している。畳小上がりの段差で利用者の転倒事故が散発していたため、委員から改修工事の意見が出され、段差のない床に改修されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員に包括支援センターより参加頂いて意見を伺っている。また、地域医療の連携等についてもアドバイスいただいている。	法人事業として、年に1回保険者職員を招き行政説明や情報交換をする機会が設定されており、管理者が参加している。要介護認定申請の手続の際には、市役所の窓口に出向いている。生活保護対象者の入居手続き時には、担当者やとりし、地域包括支援センターからは空き状況の照会が入ることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止に係る指針を策定している。 ・身体拘束廃止に係る研修会を行っている。 ・夜間や突発的な場合には含みを持たせるが、原則として行なわないこととしている。	身体拘束防止の委員会は、法人本部で毎月開催され管理者が出席している。開所当初に比べ殆どの利用者が穏やかな症状で、無断外出もなく物理的な身体拘束も実施していない。日常のケアにおいては、スピーチロックに留意し対応しているが、職員の基本認識において温度差があり、勉強会等でケアの向上を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員会議で研修機会を設け考え方を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・職員会議等で研修の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、入所前に説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進委員の中に利用者家族も委員として参加頂いている。 ・面会時に家族の意見や要望を聞くようにしている。	事業所の運営に関し、アンケート調査等は特に行っていない。家族からは、運営に関しての意見は殆ど無く、利用者についての預かり品や衣類等日常的な希望や意見が話されることが多い。職員は家族と気軽に話が出来る雰囲気づくりを工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議には、全員参加で意見を交換している。	毎月1回の職員会議時は、休暇の職員も全員参加し、打合せやケースカンファレンス、研修の伝達講習等を行っている。最近の例では、洗濯物の取扱いについて意見交換を行った。夜勤時間の短縮の提案もなされたが、結果的には従来通りの運営をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員の意識などの確認をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム協会に加入しているので、研修等には参加している。 ・協会の研修会の内容は、会議の復命研修にて職員に還元している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前の訪問調査等を行い、本人からの話を聞くなどの対応をしている。 ・顔見知りになる機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所前に訪問調査し、家族の話を聞いている。実際に本人、家族が施設に来所してもらい、どのような所なのか確認できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合いながら、他のサービスの利用状況を確認し、入所日を決定するなどして対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	そばに付き添いながら話を伺い、家族のようにいられるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などは、生活の様子などを伝えながら本人の思いを伝えたり、家族からの意見を伺いながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の親類に來所頂いたり、自宅周囲の方との関係を継続できるよう努めている。	近隣の馴染みの美容室に出かける方が2名、入居に伴い新たに近隣美容室に通い始めた方が1名いる。馴染みの商店が店終いし、残念なことに馴染みの買物の場が途切れた利用者があった。自宅周辺にドライブをするふるさと訪問は、人員体制に応じ、年明けからの再開予定を考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の居場所が決まって来たり、食事は全員で食堂で食べ、顔を合わせる機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所した方の居宅ケアマネより、退所後の様子を聞いている。 ・ホームへ移転した方へは(家屋が近いので)ときどき面会している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・個々の生活傾向に配慮し、本人の思いに沿って行っている。 ・本人の話を良く聞いたり、家族に様子を報告しアドバイスを頂いたりしている。	入居前に家族から聞き取る「暮らしのアセスメントシート」に、暮らし方などの情報を記載するようにしている。利用者とのやりとり後の返答が曖昧だったり、気を使って本音の返事が出来ない利用者が1～2名おり、食欲低下等日常的变化で気になる様子がある場合は、カンファレンスで検討している。	「暮らしのアセスメントシート」の内容に、入居後利用者が話したり、生活の様子から新たに確認出来た思いや意向を追加するなど積極的に活用することで、利用者本位の支援を強化できるよう取り組むことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に伺っているが、入所後の生活の様子を見ながら、家族から再度伺うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌に日々の様子を書きながら、状態の把握に努めている。朝・夕のミーティングにて担当者どうしの申し送りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の職員会議に、ケアの困難な所を出しその都度話しあっている。また担当者会議も行き、計画の評価を行っている。 ・家族からの意見も求めている。 	<p>入居が決まると、管理者と介護支援専門員が自宅等に訪問し、初回介護計画を作成している。入居後は状態が安定すると3ヵ月おきに職員全員参加のカンファレンスで見直しをしているが、サービス内容の評価から計画作成まで介護支援専門員が中心に実施しており、居室担当者の所感や利用者、家族の希望や役割まで盛り込んだ内容には至っていない。</p>	<p>居室担当職員や他の職員の気付きや意見を、モニタリングや評価などで更に活かすことができるようにするとともに、プランを本人・家族に説明し、意見・要望などを丁寧に聴取し反映させていくことが望まれる。</p>
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース記録を活用したり、朝・夕の申し送りによって生活の様子を共有している。 ・毎月の会議で利用者一人一人の目標を確認しまた評価している。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・夏場は16時からの夕方入浴を行っている。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・市の移動図書館を利用している。 ・家族協力で馴染みの美容院に行っている ・近隣の理容店に訪問散髪頂いている。 ・保育園との交流を推進している。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問診療(隔週2回)等を活用している。 ・必要時は家族から通院の支援をいただいている。 	<p>入居契約時、訪問診療の状況を説明することにより、多くの家族が受診をこれまでのかかりつけ医から訪問診療に切り替えている。皮膚科や眼科等の専門医への受診は家族に対応して頂いており、現在2名の利用者が皮膚科を受診している。隔週の訪問診療の他、週に1回連携している訪問看護ステーションからの看護師の訪問があり、日常的な健康管理は充実している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護が定期的巡視(週1回)で来所している。入所者の状態を報告し、変化等があれば主治医に報告している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院等があった場合は、情報提供することはもちろんのこと、入院中は訪問し様子を伺うなど、退院等についても看護師に聞き、家族とも相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入院後の状態変化により、主治医・家族と相談し、特養の入所等の申し込みを行ったケースがある。施設で出来ないことは伝えているが、家族の希望も伺っている。 ・終末期のあり方については、家族の希望は聞いている。医療的な関わりが多い場合は受け入れが困難である事は説明している。	終末期の方針は、原則家族の希望を優先し対応しているが、系列法人に特別養護老人ホームもあり、介護度が重度化し一般入浴が難しくなった場合の入居申込みについて説明も行っている。この1年間で、自宅での看取り希望のご家族が、1か月間事業所内で介護の研修を行い、居宅サービスに繋いだ看取り事例があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急マニュアルを作成している。 ・定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期の避難訓練を行っている。 ・地域に特養の防火協力隊があり、年1～2回に実地訓練を行っている。	火災想定消防訓練を春と秋の2回実施している。地域住民の直接的な訓練参加は行われていないが、隣接する法人の特養ホームなどで行われる訓練には、近隣住民を中心に20～30人程度で組織する防火協力隊が参加しており、発災時にはこの組織が機能するとしている。ハザードマップ上で危険はないが、自然災害時の避難方法の確認は必要と考えている。備蓄品は本部で保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助や支援の場面において、利用者のプライバシーに配慮している。	入浴介助や排泄介助の際は、危険回避の観察をしつつ、羞恥心に配慮しながらの介助を行っている。入居者は全員女性であり、異性介助を嫌がる利用者には、柔軟に職員が交代している。広報紙等の写真掲載に同意が得られない場合は掲載していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご本人の希望を聞いて対応している。 ・介護者のペースで話すことが無いように留意し、利用者の話をゆっくりと聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表をある程度の基準としているが、全てその限りでは無く、利用者本人の意向やペースを尊重しながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・利用者と職員が外出し本人に衣類等を選んでもらい購入する機会を設けている。 ・入浴時に着替えの衣類を選んでもらったりしている。洗髪後は、頭髪の乾燥後鏡の前で整えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立作成時には、希望を聞いている。 ・食事は職員も一緒に食べている。 ・食器拭きやテーブル拭きを利用者の方と一緒にすることがある。 ・年に数回焼き物パーティーを行っている	利用者の誕生日には食べたい物を聞き取り、献立に提供している。麺類が好きな利用者が多く、週1回は麺類を提供し、日曜の朝はパン食、冬至にはカボチャを提供したりと、嗜好や季節感を大事にしている。普段の献立は職員が作り、内容を管理栄養士が確認している。敬老会のジャンボ海苔巻き作りの前にも、何回か事前練習会を実施し海苔巻きを食している。恒例の「梅干しづくり」も手早く上手に行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・献立は職員が立てるが、特養の管理栄養士に栄養面・バランス等の確認をもらっている。 ・食事摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、歯磨きや入れ歯洗浄を実施。 ・夜間は入れ歯を保管している。入れ歯は週2回洗浄剤で消毒している。 ・月1回歯科衛生士から指導をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前食後の排泄介助・随時の介助等を、排泄記録用紙に記録し対応している。	どの利用者家族にも入居後、布パンツを持参戴き、排泄用品の使用を最小限にし、定時の声かけとソワソワ・多弁等の利用者の様子からトイレ誘導し、排泄支援をしている。また、便秘が続くと利用者が不穏となるため、牛乳やヨーグルト、オリゴ糖、手作りゴボウ茶、雑穀等の食品を利用し、自然排便を促す取り組みを試行している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・朝食後の排泄介助・水分補給・下剤の服薬確認等を行っている。 ・排泄の状況は適時訪問診療や訪問看護の来所時に報告している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	・年間を通じて夕方16時～入浴している。 ・1人週3回入れるように計画している。 ・本人の拒否があれば、次の日に声がかけている。足浴を実施することもある。	夜間の睡眠支援と自宅でのこれまでの生活リズムを尊重し、職員の勤務時間を工夫し、夕方からの入浴を提供している。現在皮膚疾患の回復支援のため、入浴を毎日提供している利用者が1名おり、毎日入浴する方が複数者になった場合には、提供開始時間を早めて対応することとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬期間は、「足が冷たくて眠れない。」と訴える入所者には、湯たんぽやホットタオルで足を温め対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服はほとんどの方が服薬している。 ・内服の変更時は、薬の効能や用法を申し送り、服薬確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・モップ掛けや、洗濯物・タオルたたみ、食器拭きなどを、お願いしている。 ・畑の耕作や草取りを職員と一緒にいることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・施設では、母体の特養ホームからリフト車や軽自動車を借りて、地域行事へ参加している。近所への散歩、公園へのドライブ等を行っている。 ・ふるさとドライブ、外食ドライブ季節のドライブを行っている。	天気の良い日は、事業所周辺を1周したり、隣接の保育園まで、民家の花を観賞しながら10分から15分程度の散歩を楽しんでいる。職員が手薄な時には、ホールから出入りできるウッドデッキで日光浴をしたりもする。春先から秋口には、事業所の菜園で畑作業を楽しむ利用者もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金のしくみを設けて、希望や必要に応じて使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者が「〇〇へ電話を掛けたい。」と訴えた際には、本人に電話番号を確認しかけた相手の了解を得て通話している。また家族からののはがきや手紙は本人に手渡し読み上げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・展示スペースを利用し、普段の様子・行事等の写真を貼付している。 ・個人の作品も展示している。 ・玄関前に季節の花を植えている。	吹き抜けの高い天井の下に、集合型のテーブルが配置され、活動時には利用者の声が明るく響きわたっている。ホールを取り囲む様に居室が配置されている。昼寝以外は、利用者は日中共有ホールで過ごすことが多い。玄関には、利用者夫々のスナップ写真を綴ったアルバムが用意され面会者が自由に見ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・こたつ・ソファの利用や食堂テーブルの定位置で過ごしている。 ・好天時はベランダ席で日光浴や食事をすることがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やぬいぐるみなどを置いている。	ベッドやクローゼットが備えつけられ、壁には好きな猫の写真や家族写真等が飾られたり、位牌や沢山のぬいぐるみに囲まれている居室もある。テレビの持ち込み者は3名あり、思い思いのテーブルや椅子も設置されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・着替えや歯磨きなど自分でやっている。 ・手すりの設置により、歩行支援をしている。また、浴室にも手すりを増設置し安心の基入浴出来るようにしている。 		